

(中間評価)

世界で活躍できる研究者戦略育成事業 (実施期間：令和3年度～令和12年度)

プログラム名：世界的課題を解決する知の「開拓者」育成事業 (T-GEEx: Tokai Pathways to Global Excellence)

代表機関：名古屋大学 (総括責任者：杉山 直)

共同実施機関：岐阜大学

取組の概要

本事業は、「国」「業種」「分野」「文化」の壁を打ち破り、異なる領域の知と経験を縦横につなぎながら新たな課題に常に挑戦し、チームを牽引して世界的課題の解決を実現する知の「開拓者」を育成することを目指す。このため、東海圏および他の地域の学術機関や企業と協力してコンソーシアムを形成し、プログラムを東海圏・日本全体に波及させる体制を構築していく。

本プログラムの理念として、育成対象者 (以下、「T-GEExフェロー」) として選定する若手研究者が異なる志向性やニーズを有しており、それぞれ独自の研究ステージにあることを重視する。したがって、T-GEExフェロー全員が各種モジュールを通じて一定の高いレベルのトランスファラブルスキルを習得し、研究ネットワークの構築を行うことに加え、研究者として自らを進化させ、飛躍するための育成計画を、個別に育成トラックとして定めた上で策定する。トラックには、国際共同研究、学際共同研究、産学連携、起業と、これらを組み合わせることができる拡張トラックを設定する。T-GEExフェローは学術メンター・企業アドバイザーから助言を得たり、URAの支援を受けたりしながら、テラーメード型研究費等をもとに共同研究を推進し、研究力と産学連携推進力を高めていき、40代には世界的に活躍するPI (Principal Investigator) として、世界的研究拠点や国際的研究プロジェクト、あるいは産業界を巻き込んだ大型プロジェクト等を運営・リードするトップ研究者に成長することを目指す。

育成期間終了時の達成目標としては、国際共同研究と学際共同研究トラックで国際的な有力学術雑誌 (Q1 ジャーナル) における論文受理2件以上、あるいは外部競争資金獲得1件以上、産学連携トラックで民間企業との共同研究や学術コンサルティング契約を1件以上、あるいは民間企業との共同特許出願1件以上、起業トラックでビジネスコンテストにおける表彰1回以上、あるいは起業支援の資金獲得1件以上等をそれぞれ設定する。

本プログラムは大学院教育から世界的研究者として活躍するレベルをつなぐ、東海国立大学機構における包括的若手研究者支援総合パッケージを構築する努力の一翼を担うものとして運営される。プログラムは知識・技能の習得やネットワーク構築を目的とする講座や機会の提供 (フェーズ1) とテラーメード型支援 (フェーズ2) によって構成される。

また、本プログラムでは、プログラムを実施し、発展させていくための基盤整備として、デジタルユニバーシティ構想などを利用して、コンソーシアム全体の研究環境の最適化を目的としたインフラストラクチャー整備を行う。研究環境の整備は、ダイバーシティあふれる研究者集団を東海圏および日本で育成していくためには特に肝要である。

最後に、本プログラムでは、東海圏のみではなく、日本全体への波及効果を持つことを目指しており、このため、コンソーシアムへの参加学術機関・企業の拡大を図る。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (事業運営 体制の構築)	進捗状況 (研究者育成プログラムの開発、 実証、普及・拡大)	進捗状況 (研究者育成体制の構築)	進捗状況 (支援対象 研究者のサポート)	今後の進め 方と取組の 継続性・発展性
A	a	a	b	a	a	a

総合評価： A (概ね優れた水準にある)

(2) 評価コメント

計画された取組を着実に実施しており、研究費支援や異分野協力の場の形成と URA による丁寧な支援の相互作用がよく機能している。また、東海圏の大学、企業、加えて海外の大学などがコンソーシアムを形成し、若手研究者を育成しており、中核理念としての「テラーメード型」が特徴的なものとなっている点も評価できる。一方で、プログラムの目標である『国』『業種』『分野』『文化』の壁を打ち破り、異なる領域の知と経験を縦横につなぎながら新たな課題に常に挑戦し、チームを牽引して世界的課題の解決を実現する知の『開拓者』を育成する」に対応する適切な KPI が設定されておらず、「40 代には国際共同等をリードする世界的なトップ研究者に成長する」ことに期待が持てると判断できる根拠となる実績を確認する必要がある。

令和 8 年度以降の事業運営においては、支援対象と支援内容を精緻化し、事業を推進していくことを期待する。

・**進捗状況 (全般)**：フェローを 24 名採用するとともに、地域の連携大学からのアソシエートや企業アソシエートの採択も拡大しており、概ね順調に進捗している。フェローの卒業やキャリアアップもキャリア形成の面では評価できるが、キャリアアップが直ちに「世界的なトップ研究者」を生み出したことにはならず、本プログラムの効果を反映する KPI ならびに達成度合いの評価に工夫が求められる。

・**進捗状況 (事業運営体制の構築)**：大学執行部や総括責任者が責任を持ってプログラムを進めており、PDCA が機能する体制が整えられている。また、文系研究者と産業界アドバイザーの交流の仕組みは貴重であり、海外の研究者を含む外部有識者による定期的な評価や、海外の学術機関に所属する研究者をメンターに迎える仕組みを導入し、国際的な助言を受けながらプログラムの改善を進めている点は体制面の強みとして評価できる。今後は全国的な普及体制への足がかりの構築が期待される。

・**進捗状況 (研究者育成プログラムの開発、実証、普及・拡大)**：育成すべき研究者像の実現に向けた適切なアプローチとはなっている。アソシエートや企業アソシエートを含めた交流イベントがモチベーション向上や共同研究の契機となっており、名古屋大学高等研究院を通じて、図書館や実験機器の共通利用システムをコンソーシアム全体に開放し、共同研究を促進している点は先進的な取組として評価できる。一方で、プログラムの普及・拡大は中部圏にとどまり、全国的展開戦略は未だ具体化されていない。そのためには、実証段階にある育成の仕組み（インターンシップ、クロスアポイントメント制度、短期海外派遣）を活用することで、研究者が一時的に教育活動から離れる期間を如何に学内システム（これまでの研究者としてのキャリアパスの在り方や

評価等)と整合性を図るかに加え、プログラムの普及に向けたノウハウを蓄積することが期待される。また、効果把握においては、傾向スコア解析や逆確率重み付けにより、年齢、分野をあわせたマッチングを行うことが期待される。

・**進捗状況(研究者育成体制の構築)**:URAによるきめ細かな支援が行われており、他大学のURAとの交流によって支援方法の波及に努めていることは評価できる。また、タスク・フォースは、フェローの主体性やリーダーシップを実践的に育む仕組みであると認められ、リトリート合宿等を通じて、フェロー間の交流や切磋琢磨の場を提供している点も評価できる。国際共同研究トラックのフェローに対して、海外の学術機関に在籍する研究者をメンターに設定する取組を積極的に導入しており、国際的な活躍を促す体制を整えている点も評価できる。一方で、シーズ共同研究費については、学際的な提案があったかどうか極めて重要であるため、把握に努められたい。

・**進捗状況(支援対象研究者のサポート)**:フェロー・アソシエートに対して、研究専念環境や研究時間の確保に配慮しており、研究に集中できる基盤が整備されている点は評価できる。また、フェローのキャリアアップも多くみられたため、流動性についても良好といえる。一方で、学術メンター・企業アドバイザー制度が十分に機能しているか、「高度な専門性」「協働力」「課題発見力」「世界の潮流をつかむ力」「出口志向感覚」「研究推進力」といったコンピテンシーに着目し、それを育成する方向でメンターが支援できているかは明確でないため被評価機関による検証の必要がある。

・**今後の進め方と取組の継続性・発展性**:自主財源の確保に向けた見通しが明確に示されている。名古屋大学内で「若手アカデミー」の設立を構想し、本事業をその一翼として位置づけることなどは、全学的な持続可能性を意識した展望として評価できる。一方で、連携大学とのつながりはイベントが主のように見えるため、フェローがアソシエートや企業アソシエートを巻き込んで共同研究を行うなどイベント以外のつながりが増加することを期待する。連携大学からのアソシエートに対する本プログラムの影響(効果)を把握した上で、有効性のある将来構造を考える必要がある。